

## クルリンと ほしぞらさんぽ 5月号



## 4年生になった皆さんへ

4月中に夏日になるなんて、やはり気候が大きく変化しているようですね。でも星空の季節には変わりがありません。5月はまだ春の星空です。

## 月とほしぞらさんぽ可能な夜の関係

4月中にほしぞらさんぽを心がけていた人は気付いたと思いますが、ほしぞらさんぽができる夜って意外に少ないですね。お天気もですが月の明かりがあると星が見にくくなりますね。これを考えてみましょう。

これには月の形の変化が関係しています。月の形が「新月」から「新月」まで毎晩少しずつ変わっていくことは知っていますね。新月のことを月齢げつれい1と言いますが、その日は月が太陽とほぼ同じ方角にあって日没とっしょに月も沈んでしまい、月は見えません。つまりほしぞらさんぽができます。

その後、毎晩月は少しずつ東へ移っていき、月齢7ぐらいで半月（上弦じょうげんの月）になります。このころの月は夕方に南の空に見えていて夜の半ばに沈みます。ということは？ ほしぞらさんぽにはジャマですね。下の図をよく見て考えましょう。

さらに月齢15ぐらいになると満月となります。日没ごろに東から月が上り、一晩中月が輝いていますからほしぞらさんぽはできませんね。

下の図はちょうど日没時、見えている月の形と方角の関係を表した図です。ほしぞらさんぽができるのはこの図の1日～5日ぐらいまでで、この間なら夕方見えている月は西に沈んでいくから星が見えます。また図にはありませんが満月を過ぎて19日ぐらいになると、月が夜遅おそく上ってくるようになりますから、宵よいのうちならば星が見えてほしぞらさんぽが可能です。

下に5月の月の形の変化を並ならべておきました。ほしぞらさんぽができるのは何日から何日まででしょうか、お家の人とっしょに考えてみてね。

## 5月の星座

4月号でも紹介しょうかいした春の星座が見えています。南には、かに座、しし座、おとめ座、からす座、東にはうしかい座、北を向けば北斗七星（おおぐま座）がはっきりと見えますね。外に出る前に、星図と星座早見盤はやみばんでしっかり調べておきましょう。

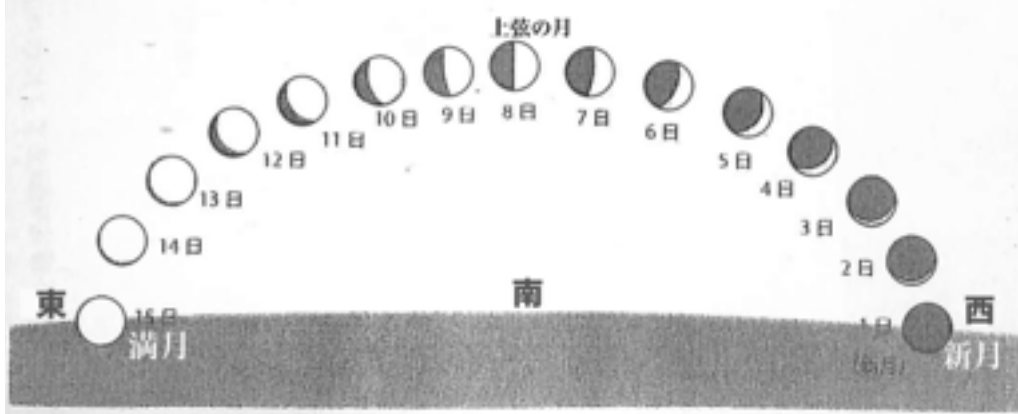
春の一等星は、うしかい座のアルクトゥルス-0.1等、しし座のレグルス1.4等、おとめ座のスピカ1.0等。春は一等星が少なくてさびしいような星空ですが、西の低い空には冬の

1等星がまだ見えています。西が開けている場所ならば、こいぬ座のプロキオン0.4等、ふたご座のポルクス1.0等、ぎょしゃ座のカペラ0.1等も見えています。火星もまだ残っています、探してみましょう。

春の大曲線をたどりましょう。北斗七星のひしゃくの柄えのカーブを伸ばしていくと、うしかい座のアルクトゥルスが輝い

日没時に見える月の形と方角

新月の日を1日、満月の日を15日としてあります



ていて、さらにカーブを伸ばすとおとめ座のスピカに行き当たります。見上げて確認してね。

双眼鏡がある人は、かに座の四角の中に星の集まり（星団）を見つけてみましょう。プレセペと名前が付いている散開星団です。

### 何等星まで見えているの？

伊勢原の夜空は街明かりでかなり明るくなっています。空が明るいので星の数が少ないですね。いったい何等星まで見えているのでしょうか。自分の目で確かめてみましょう。右のしし座の図で調べてみましょう。

### しし座の星

